

---

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時55分）

---

○議長（斉藤 重君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式、どちらかを述べてから質疑に入ってください。なお、固有名詞等は発言に十分注意をしていただきたいと思います。

なお、傍聴者にもお願いします。議場内ではお静かにお願いします。

---

◎一般質問

○議長（斉藤 重君） 日程第6、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（斉藤 重君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

昨年12月の衆議院選挙も数の上では自公の大勝に終わり、アベノミクスと言われる経済政策により株価の上昇など明るい展望を感じているところであります。

一方、TPPによる農業問題など難しい問題もありますが、政治家は国民のために熱意と冷静さをもって頑張っていただきたいと思います。

当町におきましても、今定例会は、今後10年間の町の方向性を決める第5次総合計画と25年度予算を審議する定例会であります。町長におかれましても、今後の政治生命を左右する最終年度でもありますので、私も知恵を絞り、松崎の将来のために質問をいたしますので、サイトウミクスなる町長の力強い答弁を期待するものであります。

それでは、最初に、第5次総合計画の中から教育、児童福祉の充実について伺います。当町の24年12月末時点の5歳までの人口は233名ですが、10年後には140名くらいになるのではないのでしょうか。私の試算では3歳から幼稚園、保育園に入る年、松崎幼稚園50人、保育園40人

くらいになると予想されます。

このことから考えますと、平成25年度に比べ松崎幼稚園児は10人以上減りますし、また、5歳までの人口も100人あまり減少することが予想されます。

そこで、中川園・岩科園の統合、また、聖和保育園の建て替えも耳にするようになりましたので、以前より町長は幼保統合の意思はないとのことでありましたが、子育て支援、少子化の解消と総合的な面から考えて、保育園と幼稚園の合体を視野に入れた考えはできないか。再度質問いたします。

次に、松崎小学校の移転についてであります。県の第4次津波被害想定も国の津波高とほぼ一致した中間報告が示されました。松崎小学校の最大浸水深を3.7メートルあまりとしますと、3階、屋上への避難が可能かと考えますが、周辺家屋の倒壊や漂流物等の被害を想定した安全対策として、小学校を移転する考えはないのか、お伺いいたします。

次に、子育て支援の充実の中で、「各種保育サービスや子育てサービスを充実するとともに、地域と協力し、安心して子育てしやすい環境づくりを推進します」とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか、お伺いいたします。

次に、高齢者福祉の充実と土地利用についてお伺いいたします。昨年12月末現在の松崎町の世帯数は3077世帯で人口は7644人、内65歳以上は2924人で38パーセントを占めておりますが、2025年、国の人口推計では松崎町の総人口は6000人を割り、65歳以上が約半分を占め、75歳以上が32パーセント余りになると推計されています。そんな中で、高齢者単独世帯は1150軒余りになると予想されます。85歳以上の大幅増により、介護者の急増が予想され、当局の取り組みは不十分ではないかと考えるものであります。

そこで、高齢者単独世帯が急激に進むことが予想されるなか、茨城県牛久市の空家対策や南伊豆町の杉並区特養構想などのような具体策があるのか、伺います。

次に、人口減少、高齢者化や鳥獣被害により耕作放棄地が増加しています。当町ではハーブ栽培の取り組みなどにより、県から取り組みについて表彰もされていますが、農林業の振興に対する当局の考えを目標指数とともに伺いたいと思います。

最後の質問になりますが、環境整備、安全なまちづくりについて伺います。当町では「日本で最も美しい村」連合や「世界で一番富士山がきれいに見える町」、「花とロマンの里」をキャッチフレーズに内外に松崎町を発信していますが、本当にこれだけでよいのでしょうか。人口減少を止めるために教育にもっと目を向ける必要があると感じています。

いま、豊かな自然、東京に近いことを理由に伊豆地域への移住・定住が人気を呼んでいます

が、松崎町の取り組みはどうでしょうか。牛原山の遊具の管理等を見ても、使えない状態のものがあります。本当に町の環境整備と安全なまちづくりを考えるならば、もっと教育、若者支援に目を向けるとともに、廃校の活用など早急に取り組むべきものと考えています。

警察署等の移転や避難タワーの建設などの進捗状況と併せて当局の考えを伺いたいと思います。

これにて、壇上よりの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 藤井要議員の一般質問にお答えします。

大きな1、第5次総合計画について。1. 教育・児童福祉の充実について。

①「少子化を考え、保育園と幼稚園の統合も視野に入れた考えはできないか」についてであります。

保育所と幼稚園の一元化の大きな目的は待機児童の解消にあります。当町の場合は、出生児数の減少もあり、待機児童もいない状況であるため、差し迫った必要性はないと判断しております。

しかしながら、今後、制度改正や児童数の更なる減少など幼稚園や保育所を取り巻く環境に大きな変化が起こることも予想されます。こうした場合には、再検討しなければならないケースも出てくるかもしれませんが、現状では問題はないものと考えております。

②「松崎小学校の移転の考えはあるのか」についてであります。

松崎小学校につきましては、津波の浸水区域に入っていることから、いろいろな角度から児童の安全確保について検討してまいりました。

現在の計画では南海トラフ3連動巨大地震の津波浸水深が3.7メートルと予測されておりますので、屋上に避難することとしています。屋上の高さが地上から13メートルありますので、津波被害から逃れることが出来ると考えています。

また、耐震性もあることから、いますぐ移転ということは考えておりませんが、状況に変化があれば検討しなければならないという認識も持っております。最終的には県の第4次被害想定を待って判断してまいります。

③「安心して子育てしやすい環境づくりを推進とは、具体的にどのようなことか」についてであります。

松崎町の新生児の数は40人前後が続いており、少子化が改善されない状況であります。少子化や核家族化の進行は、私たちが子どもの時代にあった地域の上級生と遊んだり、近所の人たちが見守るような、自然に地域で子育てをしていた環境はなくなり、子ども同士、親同士の交

流が減少しております。

特に、小さな子どもを育てている方は、さまざまな苦労や悩みがあると思いますので、同じような子育ての仲間と集える場を作ることが大切と考えています。

以前から児童館で開催している育児グループ事業には乳幼児の親子が集まり、交流の場となっていますので、さらにこの事業への子育て、孫育てが終わった方の協力を募り、一緒に活動する中で、子育ての話や相談ができる環境を作っていきたいと考えています。

2. 高齢者福祉の充実と土地利用について。①「限界集落化の中で、高齢者単独世帯が急激に進むことが予測されるが、有効な具体的対策は」についてであります。

松崎町の高齢化率は議員もご承知のとおり、年々上昇しており、65歳以上の高齢化率は50パーセントを超える地区は3地区あります。また、65歳以上のひとり暮らしの世帯数ですが、住民基本台帳を基に調べた数字ですけれども、平成24年12月末現在で約500世帯あり、全世帯数の17.2パーセントを占めております。

ひとり暮らしになった理由はさまざまだと思いますが、子どもさんがいても仕事の都合で町外に住んでいることが多くを占めていると推測されます。これを解消するためには雇用の場を作り、若者の定住を図ることが有効な対策ですが、一朝一夕にはできませんので、現状の高齢者支援策として、孤立化を防止するため、地域サロンの拡大や今年度開催した傾聴ボランティア養成講座の修了生の活動支援を通じ、居場所づくりや見守りを進めていきます。

②「空家・耕作放棄地の増加が想定されるが、農林漁業の振興について、目標指標の達成策は」についてであります。

ご承知のとおり、松崎町をはじめ地方の農林漁業を取り巻く環境は従事者の高齢化、担い手不足など多くの課題に直面しております。

第5次総合計画では、農林漁業振興の中でも農業における耕作放棄地の減少や新規就農者の確保、有害鳥獣捕獲量の増加などを目標指標に掲げております。

後継者対策としては、県下でいち早く耕作放棄地などを経営拡大や、新しく農業を始めた担い手と結びつけるため、全国農業会議所とともに連携して、全国に向けて農地貸借等の情報公開の発信を行って新規就農者の確保に努めております。

また、「農業後継者対策奨励金」や農作業の効率化や耕作放棄地の営農再開等を目的とした「農地活用助成」、「耕作放棄地対策助成」の制度の継続及び国の青年就農給付金、中山間地直接支払制度等の活用支援を行い、併せて空家の情報提供に向けて実態を調査して、定住対策の推進に繋がりたいと考えております。

近年農家の生産意欲を大きく低下させて増加傾向にある有害鳥獣被害の防止対策として、防除予算の増額や新たな捕獲奨励金の創設などにより、駆除の支援を新年度予算において拡充提案しているところであります。

また、松崎町に潜在する農林漁業の地域資金を活用して、新しい事業の創出を図る6次産業化の取り組みは、所得の向上や地域活性化につながる重要な事業で、そのための指導、助言や経営的な支援を行い、静岡県やJAなど関係する諸団体と積極的に連携してまいりたいと思います。

これらのことを含め、目標指標の達成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

3. 環境整備・安全なまちづくりについて。①「21世紀の森や牛原山などに整備されている遊歩道や遊具の維持管理状況は」についてであります。

富貴野山21世紀の森は、昭和62年度から平成2年度の4年間で林野庁の「森林（もり）とのふれあい環境整備事業」を活用し、アスレチックや遊歩道、公衆トイレなどを整備させていただきました。

また、牛原山町民の森につきましては、昭和55年度から昭和58年度にかけて工事を行い、展望台、アスレチック、森のボブスレー、遊歩道、公衆トイレなどが整備されております。

しかしながら、整備後20年から30年が経過し、遊具の老朽化が進んでいること、遊歩道が山崩れなどの自然災害により消失し、使用不能となっていることや、鳥獣被害の影響を受けていることなどの課題もございます。

牛原山の展望台や森のボブスレー、アスレチックの一部はこれまで修繕工事を行ってきましたが、全体的な再整備につきましては、なかなか難しいことから、松崎町シルバー人材センターの労務委託の範囲で年間を通じ遊歩道等の保守管理を行っているのが現状でございます。

なお、牛原山の老朽化が進んでいる遊具につきましては、平成25年度に撤去工事の予算を計上させていただいております。

今後それぞれの利活用につきましては、松崎町観光施設整備等利用委員会の意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。

②「東南海地震等の大規模災害を想定した県の公共施設の移転地、那賀川河口水門整備、避難タワー建設等の進捗状況は」についてであります。

町内の県関係の主な公共施設につきましては、松崎警察署、賀茂保健所松崎支援室、下田土木事務所松崎支所の3つがございます。その中で、大規模災害等に適切に対処することを前提に、松崎警察署が下田警察署松崎分庁舎として4月1日から新たにスタートすることになり

ました。スタートに際し、現在地での津波被害を心配して高台への移転も併せて表明しておりましたが、現在のところ具体的な移転地についての話はございません。

いずれにしても、町としては、町内の存続を求めて積極的に協力するスタンスであります。

那賀川河口水門整備につきましては、昨年の11月に県への要望を行いました。その後特に現時点での進展はございません。

避難タワーについては、平成25年度予算へ1基分の建設関連経費を計上させていただきました。

以上でございます。

○1番（藤井 要君） それでは、一問一答でお願いしたいと思います。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○1番（藤井 要君） まず、最初に、教育・福祉の充実でありますけれども、答弁のとおり幼稚園と保育園の統合は今のところ現状では考えていないということではありますが、将来、10年先、15年先、これは松崎で生まれてくる子どもの数が減ってくることは今のところ目に見えていますよね。そうした場合に、もう27年くらいに保育園を建てると・・・、それから、これからまた審議になろうかと思えますけれども、4000万円くらいの松崎町は交付金というんですか、予算を組んでありますよね。そして、幼稚園の方も27年度ですか、1億4000万円くらいですか、このことがありますと、単純計算でいいますと保育園の方でも建てますと、4分の1としますと1億6000万円くらいの費用がかかる。もちろんこれは国、県また自分のところの自前のお金、それプラス松崎町の4000万円、また、一方で松崎幼稚園は約1億4000万円くらいの予定をしております。

そうしたことを考えると、一旦建てますと20年、30年、もしくはもっと長い期間建物が存続するわけですね。そうした場合に、町長は80年くらい保育園にお世話になったというようなこともありましたけれども、将来のそういうことを考えた場合に、安全な所に一つの建物を建てた方がいいんじゃないかと。

それから、私はいつも言っていますように、どうしてもと言うんですしたら、右と左を分けて真ん中に廊下なんかをやって、保育園と幼稚園、そして、例えば、2時頃から1つの保育園の中にまた入ったりとか、そのようなことが考えられないかと何回も言っていますけれども、再度少子化の関係がありましたから、質問したわけですが、そのようなことは現状では考えていないということでしたけれども、人口が減る中で、まだまだ予算が減ってくる中でも改める考えはありませんか。

○町長（齋藤文彦君） 答弁でお答えしたとおり、内部ではいろいろなことを考えているわけですが、現状では民と官という2つの形でやっていて、何も不都合がなくやっているわけですから、このままでいきたいなと思っています。

聖和保育園の星野理事長の方からもいろいろなことで相談に来まして、「町はどう考えているんだ」ということがありまして、私は、第4次被害想定が6月に出ますから、幼稚園と保育園をその時一緒に考えましょうということで、聖和保育園の方に話をしております。

○1番（藤井 要君） それでは、県の方針が6月に出ますよね。そうしたら、幼保の統合は考えるということですよ。そういうことですよ。違いますか。

○町長（齋藤文彦君） 民と官と2つの形で私はやっていきたいと思っています。

○1番（藤井 要君） 方針が出たら、民と官の安全対策をそれに対してやるということで、費用とか人口減少、少子化は考えていないと、民と官をあくまでもやると・・・、2035年くらいには先ほど言いましたように90人くらい、毎月3人くらいで平均しますと36名生まれるわけですよ。10年後くらいに。そうした場合に、3・4・5歳児が幼稚園とかに入ってくるわけですよ。聖和はちょっと違いますけれどもね。

そうすると、30名ずつで考えても90名ですよ。その中の・・・、私の計算だと59パーセントくらいが今の状態ですと幼稚園にくるんですよ。そうすると、先ほど言ったように50名くらいが幼稚園に入るんですよ。それがどんどん少なくなってくるわけですよ。

ですから、そこでいいのかなということですよ。ここで結論が出るわけではないですから、またそういうことは考えた中で、やっぱり予算を組んでもらいたい。

そして、ちょっとずれるかもしれませんが、お母さん方が、人口が少なくなる、そうすると働き場を求めなければならなくなるわけですよ。そうすると、小さい子どもを抱えていると働きたくても働けないわけですよ。そうすると、先ほど町長が言いましたけれども、うちは待機児童がありませんということがありましたけれども、労働人口が減る、若い人たちが働かなければ収入が入らない、子どもを預けたくても預ける場所がない、そういうことになると、民と官と一緒にやっぱり考えていかなければならないと思っています。そういうこと・・・、時間の関係もあり、答えはまいりませんが、そういうのも考えてもらいたいと思います。

2番目の小学校の移転、これは先ほど屋上に逃げれば大丈夫だろうということでありまして、また、被害想定が出てからということはありませんけれども、東北地方のやつをいま私もずっといろいろ今まで見たことのないような映像がいろいろ入ってくるわけですよ。

そうした場合に、周りが・・・、この辺はボートがいっぱいありますよね。そのボートなんか

プラスチックですからだめになるかもしれませんが、そういうのが突っ込んできたりとか、家が壊されたのがボンボンくるわけですよ。そういうことを考えて、やっぱり安心した場所を選定すべきじゃないかなと・・・、それはもちろん費用の関係もわかります。

そして、全体的に松崎はそういう安心・安全を考えてくれている町だと、そういうことが若い人たちの定住の場所とか、そういうのになってくるんじゃないかという最終的な面もあるわけですよ。私の考えの中に。

ただ、その場所、それだけをしのげばいいというのではなくて、そういう考えに対して町長の考えがありましたらお願いしたいですけど。

○町長（齋藤文彦君） 最終的には今の場所で、第3次被害想定では大丈夫だと私は思っているわけですけども、第4次被害想定でどのような数字が出るかわかりませんが、先ほど答弁したとおり、第4次被害想定をとって判断していきたいと思っています。

ただ、あまり数字におどらされるというのはおかしいわけですけども、ぼくは下田で片田先生の話聞いていて、やっぱり何といいますか、いま松崎小学校の避難訓練をやっているわけですけども、3階まで2分くらいで行くようになったと、それで、屋上のドアを観音開きにしたので、大体3分40秒で屋上まで行けるというような避難訓練で、月1回避難訓練をしているわけですけども、今度松崎町で予算を組んで、20万円で非常に予算は小さいわけですけども、松崎町でハザードマップを作るわけですけども、「釜石の奇跡」の中で子どもたちがハザードマップについていろいろ行動しながら町の様子があったというようなことがあるわけですけども、第4次被害想定が出てからいろいろ考えるわけですけども、やるべきことがまだいっぱいあると思いますので、子どもたちのそういう防災訓練、防災教育というのを徹底して一緒にやるべきだなと私は思っています。

○1番（藤井 要君） わかりました。今後について最善の策を考えてもらいたいと思います。

3番目の安心して子育てしやすい環境づくりですけども、これはまだ具体的なことを考えていないようですので、関連してですけども、これは教育長でいいですかね。

自民党の「日本を取り戻す」ということで、教育再生というのがマニフェストにありますよね。その中で、いつも私が教育委員会の機構改革とか組織のことを言っていますので、関連してになりますけども、首長が議会の同意を得て任命する常勤の教育長を教育委員会の責任者とするなど、教育委員会制度を抜本的に改革しますということを書いてあるわけですけども、その中で、非常勤の教育長ではなく、常勤の教育長を教育委員長の責任者とする自民党の改革案に対しては「一般論だが、月1回の定例会で短期から中長期までの問題をすべて現場にいな



い人たちで議論して決定するのは無理がある」と理解を示したというような、これはある県知事の談話ですけれどもね。そういう点はいつも私は組織のことを言っているもので、もしこういうことになったら、どう思いますか。

○教育長（藤池清信君） 今のご質問の中で「非常勤の」というのは教育委員長さんのことですね。

（藤井議員「そうです」と呼ぶ）

○教育長（藤池清信君） 現行の地教行法の中ではそのような法律になっておりますので、それ以上についてどうこうというのはあれだと思っておりますが、ただ、アベノミクスと言われている中でいろんな改革がこれから行われようとしています。教育改革だけでなく、行政いろんなものが出てくると思われますが、ただ、そういう時には必ずいろんな委員会が立ち上がって、その中で審議されていって、それが国会を通過してということになっていくと思っておりますので、関心を持って見守るしかないなという現状で、そんなところでございます。

○1番（藤井 要君） まだ国会も通っていないというようなことで、そういうふうになった時には教育長は一生懸命というか、それなりのことをやってくれると思いますけれども、その時にはよろしくということで私は言うしかありませんので、いじめ問題をはじめそういう面でみんなが・・・、父兄の方とか町の方が安心してできるようなそういう方策を松崎町なりに考えてもらいたいなと思います。

次に、高齢者福祉の充実と土地利用についてでありますけれども、まだ町長は見回りとか、そのようなことで具体的なことが示されておられません。これは今から考えるということでしょうけれども、本来でしたら、第5次総合計画の10年間の中で「こういうことをやる」というようなことで、もうちょっと具体的な回答を求めたかったわけですがけれども、私としては、見回りなんていうのは何回も聞いていますよね。そういうことでちょっと残念であります。

先ほど、どこかの町・・・、市ですか、そういう所では条例を作りまして、空家対策とか、そういうことをやっている所があるわけですね。私がかかり言っていますけれども、高齢者の単身世帯が増えるというようなことの中で、単身世帯用の住宅を造るとか、そして、先ほど言った市の場合ですと、空家なんかが出てくると、そういうところを条例で・・・、ペンペン草ではありませんけれども、家がだめになったりとか、草がぼうぼう生えてしまってみすばらしくなったりというようなところを強制的にというのではありませんけれども、町で整備して、その地主なんかについて整備していくと、それが一応環境整備にも繋がっていくというふうに私は考えているんですけれども。

そして、最近では南伊豆のことで先ほども言いましたけれども、杉並区ですか、昔の子どものぜんそくとかそういう所に施設をとというようなことがありますよね。そういうことをやっぱり松崎町は考えていくべきだと思うんですけども、何も「こうしたい」という具体策がないわけですよね。ただきれいごとで「何々をやりますよ」ということではなく、考えるべきだと思うんですけども、これは南伊豆町では雇用など経済効果が期待できると、健康学園跡地に特養構想ということで具体的にやっているわけですよね。

それから、昔は老人ばかりが来ると医療費がかさむというようなことで何もメリットがないというようなことでしたけれども、最近では、これは杉並区なんかも違いますよね。一旦南伊豆にその人たちを移すけれども、後の費用とか医療にかかるものは杉並区がもつとかという、そういうことも事例が出てきていますよね。まだこれは本格的にはいかないんでしょうけれども、そういう面で松崎町も構想はありませんかね。そういうようなことをどこかにあたるとか。

松崎町は安心・安全なまちづくりをやっているよと、そして、風景もいい、ロケーションもいい、子どもの教育も充実している、ぜひ松崎町に住んで親を面倒みてもらいたいとか、そういう構想はないですか。

○町長（齋藤文彦君） 松崎町もないというわけではありませんけれども、田舎暮らし応援ツアーということは年2回くらいですか、やっていて、都会の人に来てもらって松崎を案内しているわけですけども、昔松崎は空家・遊休地実態調査事業というのがあって、空家を全部調べたわけですけども、それで、空家があるわけですけども、「貸してくれますか」というようなことを言いますと、やっぱり先祖さんがあるから「貸さない」と言ってほとんど借りる所がないわけで、その空家対策に対して西伊豆町とか南伊豆町はやっているわけで、これを松崎町もホームページの方でやったらどうだということで、いま指示しています。

ただ、松崎町は不動産屋というのがいま1軒しかないということで、松崎町がそれをやるわけではありませんので、最後には不動産屋さんの方に振ってやるわけですけども、南伊豆町とか西伊豆町はかなり数がありまして、どのような結果が出ているか、いま調べさせてもらっているんで、このようなことをやりたいなと私は思っています。

だけど、私は、全町まるごとふる里自然体験学校ということをやって、体験を通して対価を得るということをやっているわけで、年をとるということは非常に私にはいいことだと思って、元気で働いてもらうということは非常にいいことで、テレビで放映されました「蔵ら」さんの話をみまして、老人と言っては怒られますけれど、昔のお嬢さん方が本当に一生懸命働いて、ああやって活動していくのがものすごく松崎の宣伝になるわけですけども、このようなことを進め

ていながら、また田舎暮らし応援ツアーみたいなことをやりながら、両サイドでやっていければいいのかなと思っています。

- 1番（藤井 要君） 私も2～3日前ですか、「蔵ら」の関係も見ました。松崎町は・・・、高齢者のことを批判するわけではございません。高齢者が元気な町だと思います。そういうことをやっています。

私は、高齢者は10年、20年後には亡くなるわけですよ。この町を維持していくにはやっぱり若い人たちに住んでもらわなければならないわけですよ。ですから、若い子どもたちがどんどん増えてもらいたいわけですよ。

そうすると、これはもう基本的なことになるかもしれませんが、若い人たちの働き場所、それを作ってあげる、もし作れなくてもいい環境で、伊豆縦貫道ができれば、お父さんが沼津とかに通うこともできるかもしれません。そういう面で伊豆縦貫道も、もちろん応援していますし、子どもたちが安心・安全で学校教育とか、そういうことができるということで、老人の福祉も大切ですけれども、子どもの充実をもっと考えるべきだと私は思うんですよ。そうしなければ、子どもたちは居つかないと思うんですよ。雇用ができれば一番いいことですけれども、今の現状ではちょっと無理だと思います。

ですから、違う面でそういう若者支援、そういうことを考えてもらいたいと思います。その点はどうですか。

- 町長（齋藤文彦君） なかなか打ち出の小づちはないわけですがけれども、議員さんが言われたようにそういうことを努力していきたいなと思っています。

- 1番（藤井 要君） その程度の答えしか出てこないということで、次に入りますけれども、ここに第5次総合計画の中でも要介護者の減少ということで謳ってありますけれども、23年度は524人、10年後の目標は500人、これは要介護者が24名ほど減少することになっていますよね。だんだんと高齢者が増えていくんですけども、この減っていく要因というか、どのような関係で減っていくのかな。

- 町長（齋藤文彦君） 担当課長の方から答えます。

- 健康福祉課長（石田正志君） 総合計画についてはあくまでも目標指数ということでございますけれども、当然健康な高齢者を・・・、介護状態にならないということ、少なくするのが我われの一つの仕事、使命でございますので、今現在も介護認定者は総数では増えているんですが、程度としては要支援1、2という比較的軽い方が増えているような状況でございます。それについてはいろいろ介護保険の方で予防事業等を行っているわけですが、そういったものをよ

り積極的に実施しまして、介護状態にならない人を増やすという努力をしていきたいということで、そういった対象人数を目標として減らすということを出しております。

○1番(藤井 要君) 今の答えはわからないようでわかったというようなことですが、どのようにして減らしていくんだよと、例えば、こういうことをやるとかというのがちょっと足りないような気がするんですけども、ただ、減らしたいということはわかります。

私は先ほどから何回も言いますように、縦横のことを考えてやっぱりやっていかなければならないと思うんですよ。こういう高齢者の介護を減らすということになれば、介護者が介護にならないように元気にさせると、じゃあ、その方策は何だということになると、例えば、子どもたちと一緒に例えば廃校なんかを利用して、一緒に子どもたちと遊ぶ場と言ったらおかしいですけども、そういうことをやったりする。そうすると、子どもたちは、おじいちゃん、おばあちゃんのしぐさを見て良いことを学ぶ、おじいさん、おばあさんは子どもたちのそういうしぐさを見ていて心の満足度みたいなものができたり、たまには一緒にお遊戯をやろうとか、そういうことをやることによって健康にもなると、そういうことでだんだん減っていくと、それで廃校を利用しましょうとか、いろいろ縦横斜めのそういう施策を考えてもらわないと・・・、ただ縦割りではなくて、そういうことも一生懸命これからも考えてもらいたいなと思っております。

そういうことをここでいま言ってもしょうがないでしょうけれども、本当に真剣にそういうことを考えていかなければならないと思いますけれども。

○町長(齋藤文彦君) いま藤井議員が言われたように、地域住民と子どもの交流の場づくりというのをいま進めていまして、スポーツ広場の実施や老人会を巻き込んだ三世代交流の場をつくるということで、そういうのが目に見えるような形になればいいなと思ってやっています。

○1番(藤井 要君) それでは、3番目の環境整備と安心・安全なまちづくりということに入らせていただきたいと思います。

先ほどの件では、21世紀の森の関係とか牛原山、同僚議員なんかとも行きますし、私も孫を連れてあそこを登ったりもしております。

21世紀の森のログハウスみたいなものとか、そして、21世紀の森の駐車場に入っていて、右の方に行くとか網かなにかをやったものもありますけれども、私が議員になった時に質問してから整備なんかしているんですか。たぶん管理はしていると思いますけれども、何もしていませんよね。

そして、前に質問した時にも幼稚園の先生は多分あぁいった所に連れて行っていないと・・・、むだですよ。そして、そのまま。

最近では牛原山にも行っております。牛原山へ行くとアリ地獄だとか、鉄柵のようなものに乗ってやる、みんな黄色いテープを貼って乗れないようにしていますよね。そして、松崎の浜の所のシーソーですか、そんなのも撤去した状態。

今年度ある程度予算も入ってきておりますけれども、そういう点がちょっと遅れているんじゃないかと思うんですよ。

安心・安全なまちづくり、子育て支援とか、謳い文句だけはいいですけれども、先ほどの花とロマンの里とか、そういうきれいごとばかり言っていますけれども、そこに目を向けた時になにも充実していないと私は思うんですよ。町長も見ているでしょう。

考えを・・・。

○町長（齋藤文彦君） 藤井議員の言われるとおおり、ほとんど21世紀の森の維持管理というような形で、牛原山もそのとおおりだと思うんですけれども、牛原山町民の森と言われているわけですけれども、これから本当に・・・、牛原山町民の森で遊ぶ人も非常に少ないなということで、町民の森と謳っている以上、これをもっとうまく活用する方法がないか、そして、21世紀の森もうまくできないかということでいろいろ考えています。

今度伊豆トレイルランニングがスタートするわけですが、1500人の方が松崎町から出発して伊豆市まで天城山を通って行くわけですが、そのように松崎の町内でもいろいろな牛原山を使った、21世紀の森を使った何かこういうような行事をやって、そこに人が集まるような形に私はしていきたいなと思っています。

そして、21世紀の森は私が言っています低炭素社会のあれでちゃんと整備するとどれだけCO2を吸収するかというのがちゃんと測れるそうですので、あそこを大学の先生とか・・・、これはちょっと話が来ているわけですが、大学の先生とかそういう業者を使って、ちゃんと間伐してどれだけCO2が吸収できるかというようなことをやればいいのかと、それで一緒に、人がたくさん集まればそれなりの整備とかもできるのではないかなと思っています。

牛原の山町民の森というのは、町民の森と言いながら、昔は牛原まつり等があっていろいろ牛原山等へ行ったわけですが、今はほとんど行かないようなことになっていますので、あれをうまくもうちょっと活用する何かを・・・、体験、参加型のスポーツをやりながらうまくできるような形にもっていければということでいろいろ考えてやっていきたいなと思っています。

○1番（藤井 要君） 時間延長をお願いします。

○議長（齋藤 重君） 5分延長します。

○1番（藤井 要君） 町長は、スピーディ感をもってというようなことをいつも言っておられます。まだまだ考えている、考えているが多いんじゃないですか。今の町民の森もそうですけれども、「いつやるんですか」ということになれば、テレビのコマーシャルじゃありませんけれども、「いまでしょう」ということを言いたいですよ。「いつやるんですか」、「いまでしょう」、「いましかないでしょう」、塾の宣伝でやっていますけれども、そういうことをもってやってもらいたいと思いますよ。

それから、私はいつも質問する事項がかなり多くて焦点がぼけるというようなこともあるかもしれないけれども、私は、町民の代表として、いま松崎町ではどんなことをやっているかということ念頭に入れて広く薄くですけれども、発信していると思っているんですよ。

それで、今度の東海地震の関係もそうですけれども、先ほどの松崎警察署の関係も出ました。分署化になってということはわかりますけれども、いま移転先を探しているような状態ですよ。前に聞いたら、松崎警察署は1000坪とか1500坪くらい欲しいのではないかとというようなこともちょっと聞きました。なぜ松崎警察署は1000坪も1500坪も欲しいのかなと、自分なりに考えますと、保健所もあったりとか、土木事務所もあるとか、そういうことを総合的に考えると大きな所が必要なのかなと自分なりに考えるんですけれども、西伊豆町とか近隣の関係もありますけれども、松崎町は特に、もう松崎町はここにいい場所があるから、警察署とか公共施設を残してあげたいとか、残って欲しいというような内々の頭の中にそういうのは構想はないですか。町長。

○町長（齋藤文彦君） 下田分庁舎が松崎にぜひ残ってほしいということで、いま非常にアンテナを高くして、いろいろ県の方とアンテナを高くしているところでございます。

県の施設ですから、なかなかこちらから行動に出るわけにはいきませんが、アンテナを高くしているところでございます。

○1番（藤井 要君） 町長の中ではある程度構想があるかもしれませんが、ここで発表するのはちょっとどうかということで考えが出たのかなと思いますけれども、私としては、例えば、ちょっと遠いかもしれませんが、お金がかからないということになれば、中川小学校とか岩科の方とか、ちょっとそのような公共的なすぐにできるということになればそういう所が妥当かなと、本来でしたらもっと下の方の浸水深・・・、埋め立てても安全な所なんかに移ってほしいと、そのようなことも考えておりますけれども、それは、幼稚園の統合の場所とか、第4次被害想定最終的なものが出てこなければなかなか発表もできないのかなと思いますけれども、そういう点をやっぱり先に先に発信するようなそういう考えでやってもらいたいと思います。

ます。

そして、那賀川河口水門の関係、これはまだ賛否両論あるかと思いますが。バスで区長さんたちが陳情に行ったのかな。そういうことでももうちょっと、アンケートを取った中で60パーセント以上の方が賛成ということで進めている、町長は進めたいということで、それは町長の考えでよろしいですけども、もっと町民に発信して、みんなが、町全体と言ったらおかしいかもしれないですけども、もっと理解が深められるようどんどん情報を発信してやってもらいたいなと思っております。

できる、できないは別としても、また町の中を2分するようなことがないように、町長がしっかりとした意思を持って進めてもらいたい、説明してもらいたい、そうしております。その点は・・・、もう一度。

○町長（齋藤文彦君） 私は水門は防災の観点から必要だと思っています。松崎は平成11年ですか、水門を造るということで事業採択を受けて、反対運動が起こってとん挫したわけですけども、やっぱり陳情に行っても松崎は非常に厳しい目で見られていますので、もし造るにしても、本当に何回も松崎の皆さんで陳情に行かなければいけないと思っています。やっぱりそれには松崎の皆さんの協力が必要ですので、議員が言ったようなことを進めていきたいなと思っています。

○1番（藤井 要君） 最後の質問になるかと思いますが、避難タワーの関係ですけども、今年度の予算が7800万円くらいでしたか、組んでありますよね。まだまだこれはどこにということになると支障が出るから答えられないかもしれませんが、でも、7800万円ということになりますと、例えば、本体が6000万円とか、土肥の場合は6000万円くらいでしたよね。あとは、前回私が質問しましたけれども、液状化現象地質調査等の関係も出てくると思いますけれども、今年度中に地質調査をやって、できるんですか。25年度中に一つくらいはできますか。

○町長（齋藤文彦君） 地震が起きた場合に津波が起こって、松崎町に押し寄せるのが大体6分から7分くらいで第一波が来るというようなことで、そうすると、どうしても西区・南区というのがやっぱり避難ビルとか避難地に逃げるのに時間がかかるということで、西区の区長さんの方から「避難タワーを造ってくれ」と要望がありまして、場所等も要望地が出ていますので、それに対していま町で区と話し合いながら進めているところです。

○総務課長（金刺英夫君） ただいま予算の関係がちょっと出たものですから、今後の予算審議もございますけれども、ほぼ7800万円で、議員がおっしゃるとおり6000万円が工事費の予定

で、1000万円が一応用地購入を予定している分でございます。それで、残りの800万円が設計監理、地質調査というような形で考えております。

一応これにつきましては、当然予算を25年度に盛っておりますので、25年度内の完成を目指してまいりたいと思っております。

その後また避難困難地域、町長が言いましたけれども、津波避難困難地域を対象に今後どういう形で増やしていくかということも含めて検討していくような形になろうかと思っております。

○1番（藤井 要君） まだちょっと時間がありますので・・・最近テレビを見ていますと、避難タワーの関係ですけれども、その地域の住民が何人いるかということの予想の中で建てているんでしょうけれども、最近見たテレビですと、その地域だけでは入れないとか・・・、よそから来たり、もちろんよそへと出ているというのは昼間でしたら出ているとか、そういう関係もありますけれども、そういうのもいろいろ・・・、ただ地域の住民が1000人いるからと、そういうのではなくて、ある程度考慮してやる必要も出てくると思っております。

そして、事業計画の中では3基くらいの予定でしたよね。なるべく早く安心・安全なまちづくりということで進めてもらいたいなと思っております。

時間も来ましたので、これで私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（斉藤 重君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時50分）

---